

学校団体向け
大分県立歴史博物館
利用ガイドブック
(令和7年度版)



歴史博物館キャラクター ごりんくん

【利用にあたって】

大分県立歴史博物館では、地域の歴史に関わる資料を数多く収集・保管し、展示等の方法で当館を利用する方々へ紹介をしています。

博物館としては、学校と連携することで、博物館の活動内容や魅力を児童・生徒や教職員の皆様に伝えたいという思いがあります。そのために、下記、学校向けの博物館利用に関する指針を設けています。

【指針】

- ① 児童・生徒が生涯にわたって学び続ける力を高めるために、学校と博物館の連携・協力を促進する。
- ② 「地域」の過去を明らかにすることで、児童・生徒が「歴史」を身近に感じ、「地域」への誇りを育むことに貢献する。

上記の指針をふまえて、本ガイドブックは、教職員の皆様が当館を学校の教育課程に基づいて利用する際の参考資料として作成したものです。

当館が児童・生徒の学びに関わる最大のメリットは、「実物の歴史資料(レプリカを含む)と児童・生徒をつなぐ」ことにあると考えます。歴史資料と児童・生徒をつなぐ場所は、博物館の展示室であったり、時に、児童・生徒が毎日の学習をおこなっている教室であったりします。いずれの場合でも、子どもたちの「歴史」に対する学びを豊かにする上で、当館のような専門機関の利用は有効な手段であると考えています。是非、学校の指導計画を立案する際の視点としていただければと思っています。

最後になりましたが、本ガイドブックが、各校の教育指導計画立案の参考となることを祈念しています。

大分県立歴史博物館

【目次】

1. 施設の概要について1ページ
2. 団体での来館について2 ページ
(1)学習できる内容2 ページ
(2)利用の具体的なイメージ4ページ
(3)展示解説を希望する場合の学年・校種別利用例5ページ
(4)申し込みから受け入れ決定までの流れ6ページ
(5)その他6ページ
3. 歴史博物館職員の学校への訪問について7ページ
(1)「訪問講座」で実施が可能な内容7ページ
(2)申し込み9ページ
(3)その他9ページ

1. 施設の概要について

大分県立歴史博物館は、「宇佐風土記の丘」史跡公園内にあります。公園内には、6基の前方後円墳を含む川部・高森古墳群があり、その広さはおよそ20haになります。博物館の建物に隣接して広い駐車場がありますので、大型バスでの来館に便利です。

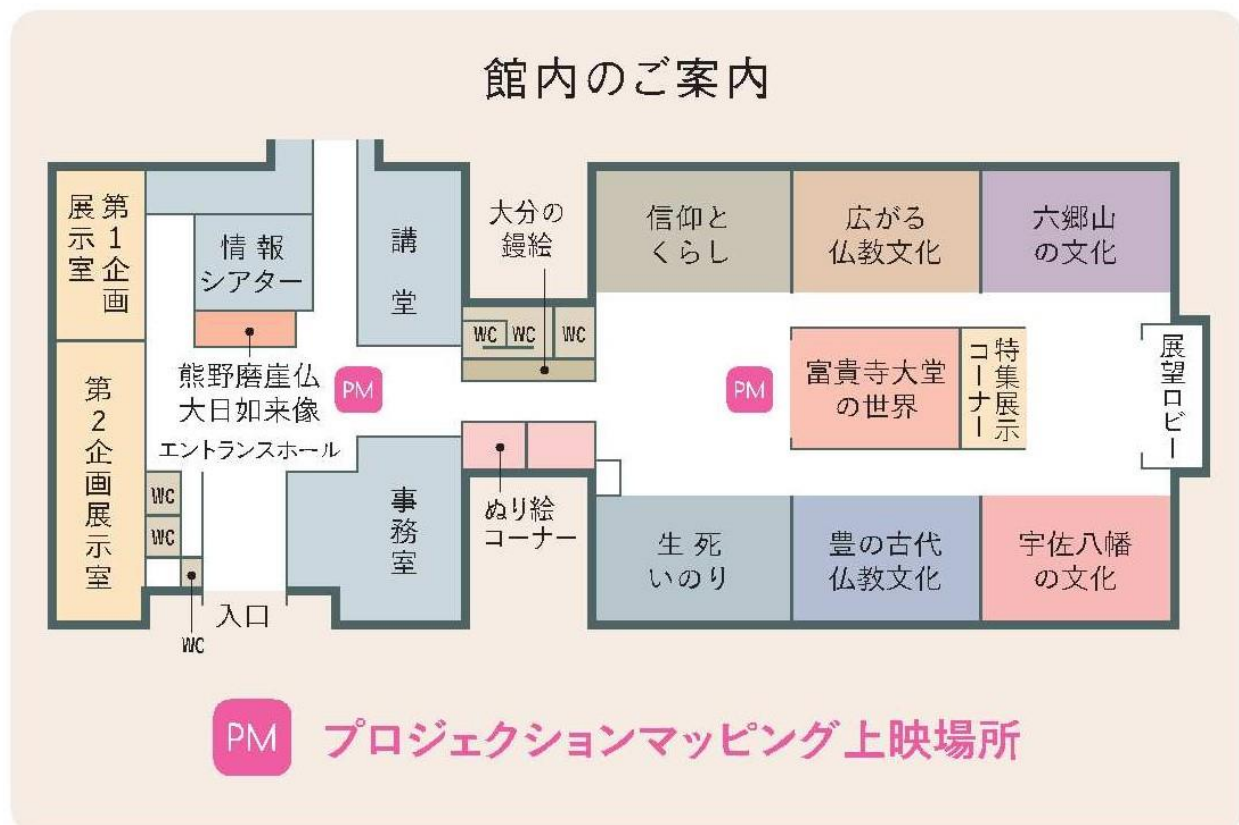
右図は、史跡公園の一部を示したものです。図中の赤塚古墳と博物館の玄関前までの距離は、およそ100mです。

社会見学などで来館の際、昼食休憩の場所として公園を利用させていただくことが可能です。

※博物館から赤塚古墳までのスペースが広場になっています。ただし、「あずまや」がありませんので、雨天時の利用は難しいです。



下図のとおり、入口から右手が常設展示室になります。常設展示室内の各コーナーとPM(プロジェクションマッピング)については、この後の項で詳細に説明します。



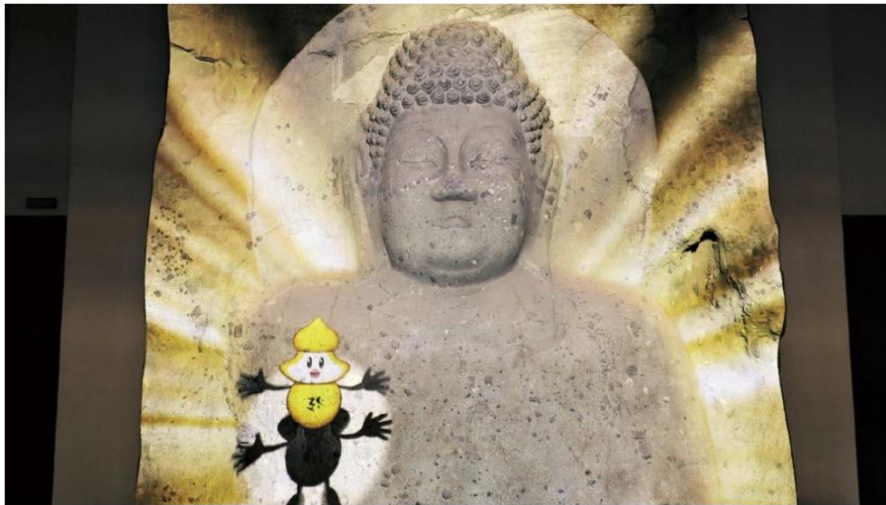
2. 団体での来館について

- 以下の2つの利用形態があります。
 - ・各団体で自由に館内や風土記の丘歴史公園を利用する ⇒ 「自由観覧」
 - ・一定の時間、職員に展示などの解説を依頼する ⇒ 「来館講座」
- 下記(1)～(5)を参照して、利用についてご検討ください。
なお、来館は小学校3年生以上を想定しています。

(1) 学習できる内容

① プロジェクションマッピングによる解説

館内の2カ所(「熊野磨崖仏」レプリカと「富貴寺大堂」復元模型)に設置されている映像・音声をとまなう展示解説です。それぞれ約6分の説明になります。



熊野磨崖仏 プロジェクションマッピング

② 常設展示室での観覧(下の「 」内が各コーナーの展示テーマです)

- ・「生死いのり」:土器や青銅器などが展示されています。
- ・「豊の古代仏教文化」:宇佐地域の古代仏教文化について紹介しています。
- ・「宇佐八幡の文化」:宇佐神宮本殿の模型などを展示しています。
- ・「六郷山の文化」:修正鬼会で使用されていたお面などが展示されています。
- ・「富貴寺大堂の世界」:大堂の復元模型内に入ることができます。
- ・「広がる仏教文化」:白杵磨崖仏のレプリカなどが展示されています。
- ・「信仰とくらし」:カマドなど、昔の暮らしを再現しています。



「信仰とくらし」のコーナー

③ 風土記の丘歴史公園内の古墳めぐり

公園内に6基の前方後円墳があります。およそ1時間あれば、公園内の全ての古墳を見学することが可能です※。

※雨天時の見学は難しいです。



赤塚古墳周辺



鶴見古墳周辺

古墳の写真は、上・下ともに宇佐市教育委員会提供

④ 体験学習

館内で「ミニチュア土器づくり」(埴輪づくり)の体験学習をすることができます。乾燥粘土を使用して作製し、完成した土器(埴輪)は持ち帰ることができます。

※体験学習の利用は、4年生以上とさせていただきます。

※体験学習に係る材料費は無料です。

※体験学習のみの実施は、受け付けていません。

※土器づくり体験を一度に実施できる人数は80人までになります。



「土器づくり」の様子

(2)利用の具体的なイメージ

① 滞在時間が30～40分程度の場合

自由観覧(職員による解説なし)がおススメです。是非、プロジェクションマッピングの上映をお楽しみください。それぞれ1時間おきの定時上映※になっていますが、ご希望がありましたら、随時、上映いたします。

※熊野磨崖仏:9:30、10:30、…… 富貴寺大堂:10:00、11:00、……

② 滞在時間を1時間ほど確保できる場合

職員が解説対応することが可能です(1学級につき30分程度)。解説内容については、(3)の学年別利用例を参考にしてください。もちろん、解説対応無しで児童・生徒が自主的に調べ学習に取り組む時間を長くとることも可能です。

③ 滞在時間を2時間ほど確保できる場合

上記(2)②の内容に加えて、(1)④に示した体験学習を組み込むことが可能です。職員が体験学習の指導をおこないます。また、風土記の丘公園内の古墳めぐり(晴天時のみ)と展示解説を組み合わせることもできます。

(3) 展示解説を希望する場合の学年・校種別利用例

① 3年生の場合

社会科授業「昔の暮らし」での来館を想定しています。熊野磨崖仏のプロジェクションマッピングを観覧の後、常設展示室「信仰と暮らし」のコーナーへ移動し、展示物を使いながら昔の道具についての説明を聞きます。

② 4年生の場合

社会科授業「地域の伝統や文化」での来館を想定しています。熊野磨崖仏と富貴寺大堂のプロジェクションマッピングを観覧の後、常設展示室「六郷山の文化」のコーナーへ移動し、国東半島の伝統文化についての説明を聞きます。

③ 5年生の場合

上記②と同内容、あるいは、6年生の歴史学習の予習としての来館を想定しています。歴史学習の予習としての来館の場合、赤塚古墳の見学、熊野磨崖仏と富貴寺大堂のプロジェクションマッピングを観覧の後、常設展示室「生死いのり」のコーナーへ移動し、様々な出土遺物についての説明を聞きます。

④ 6年生の場合

社会科の歴史学習の授業進度に応じて、常設展示室（「生死いのり」「豊の古代仏教文化」「宇佐八幡の文化」の各コーナー）で説明を聞くことができます。授業進度と滞在できる時間をふまえて、観覧の流れを事前に設定します。

⑤ 中学生・高校生の場合

各学校の状況に応じて、別途相談させていただきます。

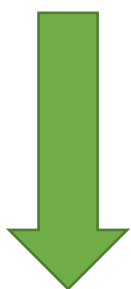
(4)申し込みから受け入れ決定までの流れ

- ① 上記(1)～(3)をふまえて、先ずはおおまかで結構ですので、利用計画を立ててください。日時の候補が決まったら、電話などで歴史博物館へお知らせください。ここから受け入れに向けた調整・相談が始まります。



※「修学旅行」での来館の場合、旅行者より当館に申込みがあると思います。旅行者が申込みをおこなった段階で、来館希望日に他団体の予約が入っていることがあります。申込み結果を旅行者側とよく確認するようにお願いいたします。

- ② 利用希望を聴き取った後、受け入れの仮決定に向けた準備を博物館側がおこないます。



※赤塚古墳見学および展示室解説は、原則1学級に一人の職員で対応します。2学級以上で来館の場合は、複数の職員で対応しますので、希望日に博物館側が人員を確保できるかどうかを調整する必要があります。調整がつくまで仮予約の決定をお待ちいただくことがございます。
※体験学習の実施については、材料・道具の準備が必要なため、仮決定段階で希望の有無を必ずお申し付けください。

- ③ ①、②を経て仮予約ができましたら、正式な申し込みとなります。申込書類は、「常設展観覧申込書」になります。様式は、当館HPに掲載しております。申し込みの際に押印は不要です。

<https://www.pref.oita.jp/site/rekishihakubutsukan/>

※本書類の提出をもって、児童・生徒・引率者の観覧料が無料になります。



(5)その他

- ① 当館の広報活動(SNSでの利用を含む)での利用目的で、学習の様子を写真撮影させていただくことがございます。不都合な点がございましたら、お知らせください。
- ② 予約内容に変更が生じた場合は、速やかにお電話にてお知らせください。
- ③ 原則、月曜日が休館日になっています。月曜日でも来館を受け入れることは可能ですが、体験学習は実施していません。
- ④ 来館に係る予習・復習教材として、当館のコンテンツ「バーチャルミュージアム」が大変便利です。是非、ご活用ください。

<https://oita-rekihaku.jp/>



3. 歴史博物館職員の学校への訪問について

職員が各学校を訪問して、児童・生徒に授業をおこなうことが可能です(以下、「訪問講座」と表記)。

(1)「訪問講座」で実施が可能な内容

① 各職員の専門性をふまえた座学中心の講座

実物資料(複製品を含む)を教室に持ち込んで児童・生徒に提示しながら授業をおこなうことが可能です。持ち込むことができる資料の種類としては、考古資料(土器など)・古文書・民具などが挙げられます。座学は、1学級の授業につき、45分(50分)を基本とします。申込の前に、博物館の「訪問講座」担当者まで個別にお問い合わせください。なお、参考までに過去の実践をふまえた講座の例を下記に示します。

【小学校】

学年	教科等	講座名	講座内容
3年生	社会科	昔の暮らし	バーチャルミュージアムを活用して、歴博の常設展示室「信仰と暮らし」のコーナーを紹介します。さらに、持参した昔の道具の説明をおこないます。
4年生～ 6年生	社会科・ 総合的 な学習 の時間	地域の伝統・文化や地域社会の歴史	学校所在地の伝統的な行事や文化、地域の信仰対象である寺院・神社、地域の開発の歴史などについて学びます。教材として適当なものは、実物資料を教室に持ち込むことが可能です。
		戦時中の暮らし	戦争に関する様々な資料を教室に持ち込み、当時の社会の様子について考えます。資料を児童が観察する都合上、学級単位での実施が好ましいと考えます。
6年生	社会科	考古資料が語る歴史	土器や石器など、先史時代の資料を教室に持ち込み、縄文時代～古墳時代の歴史について考えます。この学習の中で、黒曜石を使用した紙切り体験などをあわせて実施することが可能です。
		文字資料が語る歴史	古文書や古地図などの資料で歴史を学びます。資料の写真を見ながらの学習が中心ですが、時に資料を教室に持ち込むこともあります。

【中学校・高等学校】

教科等	講座名	講座内容
社会科・ 地理歴史科	歴史資料の 見方・考え方	文字資料や絵画資料等の写真を使いながら、資料から歴史を考えていくことの大切さについて学びます。
総合的な学習(探究) の時間、他	職業について 考える	学芸員の仕事内容などについて説明することができます。学年一斉での講座を想定していますが、人数によっては、放課後の希望者による講座も実施可能です。

② 体験学習を含めた講座

・対象は小学校4年生～6年生を基本とします。中学生以上の利用につきましては要相談とさせていただきます。

・「訪問講座」は、体験学習のみでは実施していません。必ず、実施する体験学習と関連する歴史的な内容の説明をおこなう時間を確保してください。(通常、2コマ必要です。)

(例)「土器づくり」で2コマの時間を確保した場合

(授業時間 45 分、休憩時間5分、授業時間 45 分の 95 分)

○土器の用途などについて…10 分

○作り方について…5 分

○製作…50 分

○片付け…10 分

○まとめの講義…20 分

歴史的な内容
についての説明

・実施可能な体験学習の内容は以下の通りです(全て材料費は無料)。

体験学習名	内容
土器づくり(埴輪づくり)	乾燥粘土を使用して、土器(埴輪)のミニチュアを製作します。
鑄造	低融点合金を溶かして、古代の銅鏡づくりを体験します。児童数 <u>20 人程度</u> の学級までが実施対象です。
黒曜石による紙切り体験	<u>45 分 1 コマ</u> での実施とします。紙切り体験は 10 分程度でできますので、残りの時間は土器などの考古資料を使用した座学中心の学習になります。



「鑄造」の様子

(2)申し込み

申し込みの前に、上記(1)を参考に、どのような講座を依頼したいかを検討してください。その上で、電話あるいはメールで相談をお願い致します。依頼内容が決まりましたら、歴史博物館HPより、「訪問講座申込書」の様式をダウンロードし、必要事項を記入の上、FAX・メールなどで提出をお願いします(押印は不要です)。

(3)その他

- ① 当館の広報活動(SNSを含む)での利用目的で、学習の様子を写真撮影させていただく場合がございます。不都合な点がございましたら、お知らせください。
- ② 予約内容に変更が生じた場合は、速やかにお電話にてお知らせください。

<問い合わせ先>

住所 〒872-0101 大分県宇佐市大字高森字京塚
電話 (0978)37-2100
FAX (0978)37-2101
E-mail a31702@pref.oita.lg.jp



宇佐風土記の丘
大分県立
歴史博物館

OITA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY